



北方資料室企画展「舞台は北海道～映画をみなくちゃ生きていけない～」

まだテレビのある家が珍しかったころ、まちには映画看板が並び、立ち見ができるほど映画館に人があふれ、大人も子どももスクリーンのヒーロー・ヒロインに一喜一憂。

舞台は北海道！ それは映画の舞台でもあり、映画館の椅子にいたあなた自身かもしれません。道立図書館の資料展示で、映画と映画館の世界へ……。

北方資料室では、北海道が舞台になった映画と、映画全盛のころの道内の映画館を中心に紹介する資料展示を開催しています。映画だけでなく、北方資料室で所蔵する視聴覚資料の貴重な映像も見ることができます。（8月5日（日）まで開催しています。）

目 次

に れ 「打って出る道立図書館」	1
こどもの読書週間関連事業	2～3
子ども向け図書館ツアー2012「図書館の秘密を探る」	
資料展「図書館が出てくるおはなし」・「えほんのどうぶつえん」を開園？	
事業報告 平成24年度全道図書館新任職員研修会	4
所蔵資料紹介 「道内で発行された『ふるさとカルタ（郷土カルタ）』」	5
道内図書館紹介 「『まちの広場』・美瑛町図書館」	6
掲示板	7～8

これ

「打って出る道立図書館」

北海道立図書館長 岸 豊

日本図書館協会発行の「図書館雑誌」5月号に、「打って出る県立図書館」と銘打った特集が生まれ、その中で、県立図書館として対照的な方向を目指す新潟県立図書館と神奈川県立図書館の例が紹介されていました。

新潟県立図書館は、従来の県立図書館の役割というヨロイを脱ぎ捨て「子供たちから高齢者の人たちまで誰でもが利用し楽しめる図書館」を目指した改革を行い、わずか数年で年間利用者数を22万人から47万人へと倍増させたというものです。

一方の神奈川県立図書館は、市町村立図書館等への協力貸出しが年間12万冊を超え、ダントツで全国1位を走っていますが（ちなみに道立は4万冊弱で全国第8位。）、あえて目指すとすれば、より専門性に特化した図書館（脱総合図書館宣言、脱パブリックサービス偏重主義）であるというものです。

そんな折、5月末に、新潟県立図書館と神奈川県立図書館の両館長から直接お話を聞く機会がありました。

前述の雑誌の記事に関しては、両館とも前館長の思いを述べたものであるとのことで、新潟は利用者の80%以上が新潟市民であり、長岡など他の大きな市からの利用がなく新潟市立図書館との棲み分けが課題ということでした。また、神奈川は、巡回車が2週間に1度県内を回って全額県費負担で協力貸出しをやっていたが、貸出需要が多くなったため、配送業者への委託も行うようになり、経費負担のあり方に課題があるということでした。

都道府県立図書館のあり方については様々な意見があるところであり、地域性や時代の変化によってもその役割は変わってくるもので、各県とも悩みは尽きぬようです。

道立図書館はというと、「図書館の図書館」「何でもわかる図書館」「道民みんなの図書館」を目指し、市町村立とは一線を画しながらも、土日開館、直接貸出しの実施、インターネット予約貸出サービスの実施、開館時間の延長等々、利用者サービスの改善に取り組んできています。また、地域や住民が抱える様々な問題に対応する課題解決サービスや、市町村や学校へ直接出かけて行くいわばアウトリーチによる市町村支援にも力を入れています。

「打って出る道立図書館」としてどこを目指すのか、たくさんの課題を抱えながらも、道立図書館の模索は続きます。



札幌紀伊國屋書店にて北海道医療大学と連携講座



子ども読書ボランティア育成事業

こどもの読書週間（4月23日～5月12日）関連事業

■ 子ども向け図書館ツアー2012 「図書館の秘密を探る」

期日：5月3日（木）14：00～15：30

会場：1階研修室～書庫等

5月3日（憲法記念日）に子ども向け図書館ツアー「図書館の秘密を探る」を開催しました。この行事は「こどもの読書週間」にちなみ、子どもたちに楽しみながら図書館や本に親しんでもらおうと毎年開催しています。今回は定員20名のところ応募が殺到し、急きよ40名に増やしました。

当日は親子連れ34名が2班に別れて、クイズを交えながら、ふだんは利用者が入れない書庫のほか、館長室や事務室など図書館の裏側を見学しました。

クイズは三択形式で、「道立図書館にある一番古い本は何年に出版された本でしょうか。」

（答え：1650年 3代将軍徳川家光のころ）といった図書館の本や施設等に関する内容を中心に出题しました。クイズで取り上げた資料は実際に見たり、触ったりできるよう書庫内で展示しました。このほか、いろいろな年代の絵本や、北方資料室の地図などいろいろな珍しい資料を紹介しました。

また、通常の図書館ツアーでは紹介しない館長室では、子どもたちが館長の椅子に座って記念撮影をしたほか、事務室では、市町村の図書館への支援など、本の貸出しだけではない道立図書館の役割について理解を深めてもらえました。

アンケートでは「ふだんみることのできない図書館の内部をじっくりみることができ、楽しかったです。」等の感想が寄せられました。



児童書庫を見学



1 書庫地層でクイズを出题



北方資料の紹介

(利用サービス課)

■ 資料展「図書館が出てくる

おはなし」

期日：4月28日～5月30日

会場：1階 児童コーナー

今年の「こどもの読書週間」の標語は、「君と未来をつなぐ本」。それにちなみ、図書館や本が登場する絵本や物語など77冊を展示しました。

いろんな動物やおばけ、魔女が出てくる楽しい絵本や、動物が本を運ぶ移動図書館、戦争から蔵書を守った司書などの本に合ったお話まで多種多様で、貸出しも多く出ました。展示リストは、ホームページの「展示目録」に掲載しますので、御活用ください。

<http://www.library.pref.hokkaido.jp/web/public/qlnh00000006y9.html>

(利用サービス課)



■ 「えほんのどうぶつえん」を開園？

期日：4月24日～5月12日

会場：中2階 北方資料室展示コーナー

北海道関係の網羅的収集を目指している北方資料室。もちろん、北海道に係る絵本も収集対象で、多数所蔵しています。

北方資料室では、「こどもの読書週間」に合わせて、ふだんは閉架書庫に並んでいる北海道に住んでいる動物たちの絵本を「えほんのどうぶつえん」として展示（開園？）しました。



『たんちょうづるのそら』『どさんこうまのふゆ』や写真絵本「ひぐまの樂園」、北海道在住のあべ弘士さん等の絵本など、きたきつね、ひぐま、おおかみ、サケ等50冊の「えほんのどうぶつえん」。期間中、次々と子どもたちに借りられていきました。

(北方資料課)

平成24年度全道図書館新任職員研修会

この研修会は、道内の公立図書館、公民館図書室等に勤務して1年未満の職員を対象に、図書館活動に必要な基本理念の理解及び基礎知識の習得を図ることを目的としています。

今年度は例年よりも多い56名の関係職員が全道各地から参加しました。

事後アンケートでは、「時間にゆとりがほしかった」という意見が多くありましたが、「すぐ実践できる内容ばかりで参考になった」「他の図書館との意見交換できる場が定期的であれば」などの感想が寄せられ、85.2%の方に「大いに役に立った」との回答をいただきました。

■ 期 日：6月7日（木）～8日（金）

■ 会 場：北海道立図書館研修室

■ 参加人数：56名

■ 日 程：

【1日目】

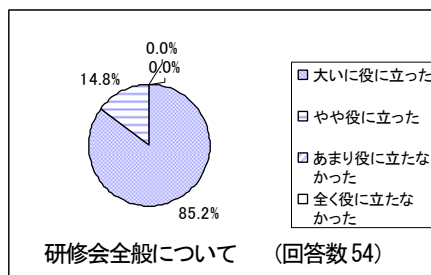
- ① 講義「公立図書館概論」 講師：北海道立図書館利用サービス部長 金山聖子
- ② 講義「著作権法 入門編」 講師：北海道立図書館企画支援課主査 工藤嘉一
- ③ 講義「カウンターの仕事」 講師：芦別市立図書館主査 藤田伊津子氏

【2日目】

- ④ 講義・施設案内「道立図書館の利用と図書館間の相互協力」
講師：北海道立図書館利用サービス課主査 桑原裕子
- ⑤ 講義「資料収集」 講師：日高町立門別図書館郷土資料館主査兼司書 只石美由紀氏
- ⑥ 情報交換 講師：北海道立図書館資料課主査 中田こずえ
- ⑦ 講義・演習「児童サービスは図書館の入り口」 講師：旭川市中央図書館主査 富田千尋氏

■ 事後アンケートから

- ・ 著作権法の、とくに複写については、実際のケースでは迷うことが多々あるので、具体例をあげて解説していただけて助かりました。レジュメも大変わかりやすかったです。
- ・ 他の図書館のフロアの雰囲気が写真でわかるのは良かった。
- ・ 道立図書館をどこまで使っていいかわからなかったが、使いたおしていいということ、具体的な利用の仕方がきけてよかった。
- ・ 情報交換では、図書館の規模によって同じ課題でも解決の方法が違うなど、有意義な話をたくさん聞けました。
- ・ 児童サービスについての講義はとても役に立ちました！手遊びはおはなし等でぜひやりたいです。
- ・ これからの図書館は、利用者の質問にただ答え、資料を貸し出すだけではなく、積極的に地域や利用者とかかわり、日々勉強し、それが良い図書館・良いサービスにつながる事を学びました。



アンケート結果より



演習風景 “全員で手遊び”

(企画支援課)

資料紹介

道内で発行された「ふるさとカルタ（郷土カルタ）」

「ふるさとカルタ（郷土カルタ）」という言葉を知っていますか？ 地域の歴史や風土に題材を取ったり、名産品やゆかりの人物などを読み込んで作られたカルタのことです。

ふるさとカルタは全国で作られています。もっとも代表的なのが、群馬県で戦後まもなく作られた「上毛（じょうもう）かるた」と言われています。この「上毛かるた」は県内の学校や地域の子供会・育成会等で習い練習するため、群馬県出身者なら「上毛かるた」を暗記していると言われるほど県民に広く浸透しているようです。

北海道内でも多くの「ふるさとカルタ」が発行されており、北方資料室では現在約40種類を所蔵しています。例えば、北海道全体を扱ったものでは、『北海道新聞』に連載された『北加伊道（ほっかいどう）カルタ』、『北海道地名かるた』、『北海道方言かるた』などがあります。

各地域で発行されたものでは、『あさひかわカルタ』『網走かるた』『郷土かるた小樽』のようにまちの名前を冠したものや、『らくのうかるた』（広尾町）、『キャベツ歌留多（かるた）』（美深町）といった地域の特徴を生かしたものなど、実にさまざまな種類のカルタがあります。

制作の方法も、自治体、観光協会、学校などが記念事業として制作したものほか、企業がPR用に制作したり、有志や個人が作ったものなど多彩です。

ふるさとの歴史や地理、文化や産業などは、長く住んでいても意外と知らないことが多いものです。さらに時代が進んでいけば、古いことは少しずつ忘れられてしまうかもしれません。市町村合併が進み、消えてしまったまちや地名もたくさんあります。そうした歴史は、もちろん本で学ぶこともできますが、「ふるさとカルタ」は、ふるさとの姿を短い文章に凝縮し、遊びながら後世に伝えていくことができるという意味で貴重な資料であると言えます。



北方資料室が所蔵する「ふるさとカルタ」（分類番号798）の一部

（北方資料課）

「まちの広場」・美瑛町図書館

美瑛町図書館 主任 森中 麻友 氏

平成24年6月1日、新美瑛町図書館がオープンしました。

昭和38年に建設した旧図書館の老朽化により、町民アンケートや検討委員会など多くの町民の意見を伺いながら、新しい図書館の建設を進めました。



新しい図書館は、美瑛産の木材（カラマツ）を天井や壁にふんだんに使用しており、木の香りが館内いっぱいに広がっています。オープン以降、「木の香りがすごくする！いいにおい。」という声が多く聞かれています。

ワンフロアの館内は、面積は従来の約2倍となり、天井を高くして書架を低くすることで、圧迫感のないゆったりした空間になっています。特に、天井のウェーブは、ゆるやかな曲線が連なる美しい美瑛の丘の景色をモチーフにしています。開架冊数は約4万冊、書架を低くし、車椅子でも利用していただけるように書架間を広げ、子供からお年寄りまで誰もが利用しやすい施設として整備しました。絵本の部屋には、新たに常時読み聞かせ

ができる「お話の部屋」を設けました。

また、閲覧室、AVコーナー、インターネットコーナーの席数を増やし、会議室には視聴覚設備を設けたことから、旧図書館では利用者のニーズに十分に答えられなかった、充実したサービスを提供できるようになりました。

昭和44年頃まで町内で採掘されていた「美瑛軟石」を壁面に使用した展示スペースを設け、町民のみなさんの作品を展示していただけるようにしました。

オープンから1か月が過ぎ、来館者は旧図書館の3倍、貸出冊数は2倍に増えました。特に、小中学生の利用が増え、児童（15歳以下）の貸出冊数は約4倍になりました。



新図書館では、本を借りたり、調べものができることはもちろんですが、それに加え、町民の「集いの場」・「くつろぎの場」・「情報交換の場」となるよう様々な取り組みを進めていきます。

まだまだ、いろいろな課題がありますが、一つ一つ課題を解決しながら、町民が気軽に集える「まちの広場」を目指していきます。

掲示板

〈貸出文庫のご案内〉

北海道立図書館では、道内市町村向けの読書活動支援事業の一環として「貸出文庫」の提供を行っています。これは図書を10冊1セットとし市町村の図書館を通じて、各市町村の読書サークルに貸出しを行う事業です。

貸出しを御希望の際は、利用サービス部利用サービス課までお申し込みください。

なお新規タイトルのリクエストも可能ですので、こちらは利用サービス部資料課までお申し込みください。

皆さまの御利用をお待ちしています。

～平成23年・24年度新規受入タイトル～

* 天地明察	沖方 丁／著	角川書店
* 慈雨の音	宮本 輝／著	新潮社
* 八日目の蟬	角田 光代／著	中央公論新社
* 四十九日のレシピ	伊吹 有喜／著	ポプラ社
* 心に奇跡を起こす対話	曾野 綾子／著	青萌堂
* 道化師の蝶	円城 塔／著	講談社

〈北海道立図書館協議会委員〉

今年度の委員を紹介します。任期は平成24年10月31日までです。

氏 名	適用区分	氏 名	適用区分
大久保 雅 人	学校教育関係者	河 野 博 光	学識経験者
池 内 みさを	〃	下 田 尊 久	〃
吉 田 真 弓	社会教育関係者	北 倉 公 彦	〃
神 野 光 男	〃	後 藤 たみよ	〃
天 水 千 鶴	家庭教育関係者	高 田 芳	〃

今年度は、協議会委員の改選期にあたります。広く道民の意見を反映させるため、協議会委員10名のうち2名程度の方を公募により選出します。8月1日から8月31日までを公募期間としておりますので、詳しくは当館ホームページ(トップページ>道立図書館について>「北海道立図書館協議会」のページ)を御覧ください。

任期は平成24年11月1日から平成26年10月31日までの2年間です。

<職員人事異動>

退職 平成24年3月31日付け

館長	河合 正月	総務企画部長	高久 忠明
副主幹兼管理課主査(総括)	佐々木 孝夫	利用サービス課主査	金田 幸子
利用サービス課主任	佐々木 裕道	資料課主任	松下 悦子

転出 平成24年4月1日付け

管理課主任	松山 貴紘 (教職員局給与課へ)
資料課主任	佐伯 基 (根室教育局教育支援課へ)

転入 平成24年4月1日付け

館長	岸 豊 (総務政策局長から)
副館長	石堂 普之 (福利課長から)
総務企画部長	千田 朗 (教職員課主幹から)
管理課主査(総括)	島倉 修一 (特別支援教育センター庶務課主査(総括)から)
管理課主任	國崎 真希 (空知教育局から)
北方資料課主任	阿部 かおり (道立文学館から)

新採用 平成24年4月1日付け

利用サービス課主事	國安 華子
資料課主事	森 定理恵

館内異動(昇任を含む) 平成24年4月1日付け

参与	佐藤 淳司 (副館長から)
企画支援課主査	原田 英明 (資料課主査から)
企画支援課主任	伊藤 嘉奈子 (資料課主任から)
利用サービス課主査	工藤 尚子 (北方資料課主任から)
資料課主査	中田 こずえ (企画支援課主査から)
資料課主任	西岡 祐子 (北方資料課主任から)
北方資料課主任	山本 真紀 (企画支援課主任から)

北海道立図書館報 第193号

平成24年7月31日発行

北海道立図書館長 岸 豊

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL:011-386-8521 (代表)

ダイヤルイン

386-8531 (総務企画部)

386-8522 (利用サービス部)

386-8523 (北方資料室)

FAX:011-386-6906 (利用サービス部)

388-2063 (総務企画部)

E-mail:gyoumu@library.pref.hokkaido.jp

H P:http://www.library.pref.hokkaido.jp